

プレスリリース

2019年4月1日

AUTOSAR がスポークスマンを任命

AUTOSAR (AUTomotive Open System ARchitecture) 開発パートナーシップは、Günter Reichart 博士を新しいスポークスマンとして任命しました。彼は 2017 年以降 AUTOSAR のスポークスマンを務めていた Thomas Scharnhorst 博士の後任を務めます。

AUTOSAR コンセプトの創始者として、Reichart 博士は開発パートナーシップの基盤に携わりました。彼は 1987 年から 2008 年まで、BMW でシリーズ開発における車両の研究とエレクトロニクスの責任者を担当。2008 年から 2018 年まで、多数の企業の顧問を務めました。

「自動車会社で長年にわたりリーダー的ポジションを務めた経験から、私は自動車開発プロセス、E/E システムアーキテクチャ、機能安全、そしてシステムエンジニアリングをしっかりと理解しています。AUTOSAR の創始者として、私はその創設以来 AUTOSAR の開発を常に見守ってきました。2008 年末の退職後には、関連するトピックにおいて OEM やサプライヤー企業の顧問を務めました。私は長年にわたり自動車ネットワークに関する Hanser Automotive 会議の議長を務めており、自動車業界内の進行中の取り組みについて優れた洞察力を得ています。私の前任者である Thomas Scharnhorst 博士の素晴らしい仕事、そして国際会議や報道機関での技術的内容の発表と、出版における私自身の経験に基づいて、私は AUTOSAR の概念について聴衆を納得させ、新しい支持者を得るつもりです。新しいスポークスパーソンとして、私は公の場で AUTOSAR を代表し、プロの視聴者やジャーナリストに明確で理解しやすいメッセージを提供、そして業界内で AUTOSAR のアプローチを推進し拡大していくことを光栄に思います。」と、Reichart 博士は言及しています。

AUTOSAR の元スポークスパーソンである Thomas Scharnhorst 博士は、彼の任期と後継者について暖かい言葉を述べています。「長年にわたり会議や報道機関で AUTOSAR を代表できたことを大変うれしく思っています。私は Classic と Adaptive Platform のソフトウェア開発が、バグの修正から安全性、セキュリティの最新アップデート、そして最近では両方のプラットフォームのプロセスの統合化を達成するまで進歩していく過程を見てきました。一般市民と AUTOSAR 組織との間のインターフェースとしての役目を務め、双方の課題と機会におけるより良い理解を提供できたことをうれしく思います。一方では、私は AUTOSAR を発表した会議で自律走行車とコネクテッ

ドカーの大きな課題について多くのことを学び、AUTOSAR 委員会のメンバーと意見を交換しました。他方では、興味を持っているリスナーにソフトウェアアップデートについて誇らしげに伝え、なぜ AUTOSAR を製品に統合すべきなのかを説明しました。後任の Günter Reichart 博士が、ここ数年で確立されてきたことを成功裏に継続し、AUTOSAR を世界標準として推進していられることを確信しております。」

AUTOSAR (AUTomotive Open System ARchitecture) について

AUTOSAR (AUTomotive Open System ARchitecture) は自動車メーカー、サプライヤー、そしてエレクトロニクス、半導体、ソフトウェア業界からのその他の企業による世界的規模の開発パートナーシップです。2003 年以来、自動車業界の為に、オープンで標準化されたソフトウェアアーキテクチャの開発と導入に従事しています。ソフトウェアとハードウェアの交換と更新を簡素化することで、AUTOSAR のアプローチは、現在および将来の車両における電子システムやソフトウェアシステムの複雑性を確実にコントロールする基盤を形成します。さらに AUTOSAR は、パートナーが競争力のある方法で協力できるようにすることでコスト効率を向上させます。AUTOSAR の「コアパートナー」には、BMW グループ、ポッシュ、コンチネンタル、ダイムラー、フォード、ゼネラルモーターズ、PSA グループ、トヨタ、そしてフォルクスワーゲンが名を連ねています。これらの企業に加えて、200 以上のパートナーがパートナーシップの成功に重要な役割を果たしており、スタンダードを無料で使用することができます。

さらに詳しい情報:

ウェブ: www.autosar.org

E メール: press@autosar.org